

2022年度日本気象学会小倉奨励賞受賞候補者の推薦募集

日本気象学会は、研究を本務としない方々が行う調査や研究を奨励するために、「日本気象学会奨励金」制度を1970年に設けました。その後、実践的な気象教育を進めている方々にも奨励するように選考範囲を拡げました。1999年には、「奨励金」を表彰に重点を移した「奨励賞」と改めました。また、最近は、狭義の気象教育にとどまらず、気象に関する普及活動についても奨励賞選考の際に考慮されております。さらには、2019年からは、小倉義光・正子基金の運用益を副賞等に活用することとし、「小倉奨励賞」と改めました。

小倉奨励賞候補者推薦委員会は、受賞者選定規程に基づいて候補者を理事会に推薦します。幅広く候補者を募りますので(候補者はグループでもかまいません。また候補者は日本気象学会員である必要はありません)、下記の要領によって2022年度受賞候補者をご推薦下さい。自薦も歓迎します。なお、日本地学教育学会、日本理科教育学会および日本気象予報士会にも推薦募集案内通知の依頼をしております。

記

締切

推薦書（メール）：2022年2月4日（金）

添付資料（郵送）：2022年2月10日（木）

推薦書の提出

推薦書（自薦を含む）の様式は「日本気象学会ホームページ（<https://www.metsoc.jp>）→気象学会の表彰→2022年度日本気象学会小倉奨励賞受賞候補者の推薦募集」よりダウンロードしてください。

推薦書は、気象学会事務局（award@metsoc.jp）へメール添付でお送りください。送付先のメールアドレスが変更されたので、ご注意下さい。

添付資料の提出

小倉奨励賞の対象となる活動の参考として添付資料がある場合には、重要なものから3点程度を日本気象学会事務局へお送りください。

送付先：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-6-9
気象庁内 日本気象学会事務局気付
小倉奨励賞候補者推薦委員会

募集概要

1. 気象学・気象技術に関するテーマについての研究・調査、初等・中等教育における気象教育の実践、

気象学に関する普及活動の実践等を受賞の対象とします。

2. 気象学・気象技術に関する調査・研究の分野では、研究を本務としないことが条件です。なお、候補者は日本気象学会員である必要はありません。
3. 2022年度の小倉奨励賞贈呈は、秋季大会（札幌市、10月24日（月）～10月27日（木）の予定）で行います。
4. 小倉奨励賞受賞者選定規程の詳細については日本気象学会ホームページをご覧ください。

【参考】2014～2021年度の「奨励賞」及び「小倉奨励賞」受賞者と研究題目

- (21) 岩崎利勝（日常生活の気象変化の観察に根差した中学校気象教育の実践）
- (20) 吉野勝美（航空機の安全運航に関わる大気現象に関する研究および航空気象に関する知識の普及・啓発）
- (19) 高野哲夫（山形県及び新潟県の気象解析のための数理モデルの開発）
中山秀晃（WebGISを活用した関東地方の雨雪判別と降雪情報の開発）
- (18) 松岡直基（北海道における吹雪・豪雨等の災害気象に関する普及啓発活動）
- (17) 秋山佳明（京都・福知山付近で発生した線状降水帯等に伴う大雨の調査研究）
阿部豊雄（高層気象観測の科学史・技術史に関する調査とその発表）
奥村政佳（未就学児童に対する気象教育研究と長年にわたる気象の普及活動）
- (16) 鶴山義晃（空・雲の観察を題材とした気象学の普及）
瀧本家康（大学ならびに地域と連携した気象防災教育の実践）
- (15) 實本正樹（大気現象の写真・動画を活用した気象学の普及啓発と高等学校気象教育への貢献）
サニーエンジェルス（母親を対象とした気象・防災知識普及および科学リテラシー向上への貢献）
- (14) 永井秀行（「リアルタイム気象情報表示システム」の構築と気象情報の利活用を通じた気象教育の継続）

小山芳太(近畿地方に局地的大雨をもたらす降水
システムの形成及び維持機構に関する解析的
研究)

なお、小倉奨励賞受賞者の詳細につきましては、
1998年度以前の奨励金の受賞者を含め、「日本気象学

会ホームページ (<https://www.metsoc.jp>) →気象学会
の表彰→小倉奨励賞」でご覧になります。

日本気象学会小倉奨励賞候補者推薦委員会
委員長（担当理事） 竹見哲也
